

(R 5 マイスクールライフサポートブック～生徒会誌「六碧」第 19 号より)



部活動紹介



男子バスケットボール部

五年一組 山田 楓大

私達男子バスケットボール部は、学年関係なくコミュニケーションがとれるチームです。また、自分の力を伸ばすために積極的に取り組んでいます。

目標としているチームは、一人一人が意識を高くもち、高め合うチームです。そのために自主性をもつて活動することを大切にしてきました。本校は、他校に比べ練習の回数や場所が限られているので、練習中に声を掛け合い、アドバイスし合うことで自分の改善点だけではなく、強みも明確にすることに繋がられていると思います。また、全員がルールや態度について確認することで、選手として成長することが出来ています。

チームの目標や課題を把握、共有するために定期的にミーティングを行うようにしています。目標の達成、課題の克服に向けて練習メニューを考え、意見を交換し合い、ホワイトボードに書き入れていくことでチームの方向性を統一しています。また、ミーティングを通して、一人一人のモチベーション向上にも繋がっていると考えています。

これからも仲間達とプレーできることを誇りに思い、支えてくださる全ての方々への感謝を忘れず、チーム一丸となって励んでいきたいと思っています。

女子バスケットボール部

五年一組 高橋 莉子

私たち女子バスケットボール部は、前期生九名、後期生七名で学年の間に壁もなく部員全員で一生懸命に練習に取り組んでいます。

練習中は、前期生、後期生でお互いにアドバイスを出し合い、部員みんなで声を掛け合いながら、試合を意識した練習を心がけています。また、練習時間が限られているため、部活動中は全力でひたむきに取り組み、みんなの前向きな声を出して活動しています。

少しずつ試合や大会が開催できるようになり、大会に目を向けて目標を立て始めました。前期生は県大会に出場できるように下越大会で四位以内に入ることを目標としました。一・二年生は人数が五人と少ないので、一人ひとりが技術を高め、五人で一丸となって戦えるように練習をしています。後期生は、地区大会でベスト4、県総体でベスト8を目標に、強みの3ポイントシュートを中心に技術の向上に励んでいます。これからも、忙しい中、送り迎えをしてくださる保護者の方々や一生懸命指導してくださる顧問の先生方への感謝を胸に、練習できる一日一日を大切に、部員みんなと明るく楽しく、一丸となって練習に励んでいきたいです。

サッカー部

五年一組 本間 進之助

私たちサッカー部は現在、前期生十九名、後期生十一名の総勢三十名で活動をしています。サッカー部の主な練習は、屋外ではサイドからのクロスに合わせる練習や正方形の各頂点にコーンを置いてパスをする練習、ゲーム形式の練習などをします。屋内では特別棟を走って体幹とストレッチを行うメニューや体育館が使えればゲーム形式の練習もします。

今年度は昨年度に比べて試合数が多く、数多くのチームと試合をして実戦経験を多く積むことが出来ました。

サッカー部の良いところは、前期生と後期生の間に壁がほとんどないところです。フィールド外では、後期生が中心となり話をするのですが、フィールド内では誰に対しても意見を述べたり指示をしたりすることができるところが、このチームの一番の特徴でもあります。魅力でもあります。しかし、まだ休憩時間と部活動中のメリハリをつけきれっていないのが改善点だと思います。

来年度はより多くの試合に勝てるよう、日々の部活動の時間を大切にし、互いを鼓舞し合いながら練習していきたいです。そしてサッカーができるという感謝を胸に活動していきます。

テニス部について

五年一組 小池 凌太

私たちテニス部は前期生、後期生共に、楽しく一緒に活動する中で、試合のルールの確認や、ボールの打ち方など技術の向上を目標に効率の良い練習をしています。

今年度は昨年度と同様に、なかなか部活動をする時間がなかったこともあり、テニスコートの整備から始まりましたが、後期生は大会に出るために少ない時間の中でできるだけ多く練習をしました。部員皆が積極的に部活動に参加したことで後期生の負担も減り、前期生も十分な練習時間ができたので良かったと思います。

来年度はこれまでの練習に加えて、学年に関係なく、前期生と後期生で合同で練習をすることと、充実した環境にするためにテニスコートを整備する時間をできるだけ増やしていきたいと思っています。

陸上部

五年一組 矢田 遙人

私たち陸上部は今年度、新しい仲間を迎え、部員それぞれが目標に向かって練習に取り組んできました。

陸上部の特徴は短い時間の中で集中して練習を行うことです。短い時間とはいえ練習の密度は濃く、メリハリのある練習を行っています。陸上部の良いところは学年の垣根を超えた仲の良さです。そんな仲の良さが活動中に見受けられることも多々あり、良い雰囲気です。陸上競技のほとんどが個人競技で目標を達成するためには苦しい練習が必要です。ですが活動を通して高め合い、励まし合うことで厳しい練習を乗り越えることができます。

今年度は部員が自己ベストを更新したり大会で上位に入ったりと陸上部に活気を与えてくれました。これからそれぞれの目標に向かって高め合い、そして楽しみながら練習に取り組んでいきたいです。

ダンス部について

五年二組 吉田 千愛

私たちダンス部は前期生二十人後期生十一人計三十一人で活動してきました。

前期生は今年、踊りの基礎となるウォーキングや振り作り、学年を越えたチームワークを強化した一年間となりました。分からない振りがあったら教え合い、助け合う姿勢が見られ、今、とても良い雰囲気です。一年生にとって初舞台である新潟総踊りのオンライン参加もすることができました。前期生は参加できるイベントが少ないので、とても良い経験となりました。

後期生は、良い作品を作り上げることを目標に、日々の部活に励んでいました。創作部門の振り作りでは、テーマを決め、ブレインストーミングを取り入れた話し合いにチャレンジしました。初めは沢山のアイデアが出て、一つに絞ることが難しかったのですが、最終的には自分たちが納得し、表現できる最高の作品に仕上げることができました。

全体ではアイソレーションの練習を日々取り入れ、体の使い方を向上させることができました。また、文化祭で披露した作品では、一人一人高い意識を持って練習することができました。

この一年、私たちダンス部は個々人が掲げた目標に向かって努力する、向上心溢れる充実した部活動をすることができました。来年度も気を引き締め、頑張ります。

バレーボール部

五年一組 高橋 碧

今年度は意欲の高い一年生に加え、バレー経験者の先生、さらに強力なコーチを迎え、更なる技術の向上を目指し日々練習に励んでいます。

前期生は基礎メニューを中心に取り組み、声を出し合い、チーム一丸となって頑張っています。また郡市新人戦では第二位を獲得ことができました。

後期生は先生の熱心なご指導のもと、プレー中にミスをしたら話し合い、全員でより良いチーム作りに努めています。

今後も、限られた時間の中で一日一日の練習を大切にし、目標に向かって精進していきます。また、日々指導してくださる先生方、私たちを支えてくださる保護者の方々、チームメイトへの感謝の気持ちを忘れず、練習に励んでいきます。

卓球部

五年二組 櫻井 優衣

今年度の卓球部は、基礎の練習に特に力を入れて日々の部活に取り組んできました。基礎練習の中で正しい動作の仕方を再認識し、自らの課題や弱点を自覚して、それを改善できるよう練習してきました。また、試合をする際には、本番の大会で十分な力を発揮できるよう、一試合一試合を緊張感を持って丁寧に行うことを心がけました。

現在卓球部が抱えている課題は、前期生と後期生の交流が乏しいことです。卓球部は人数が多いため、前期生と後期生が共に練習できる機会は休日のみです。その限られた時間を大切にして、部員同士がコミュニケーションをとれるような練習をしていきたいです。

来年度の部活でも、顧問の先生方や保護者の方々、共に練習に励む部員の仲間への感謝の気持ちを忘れずに、楽しく部活に取り組んでいきたいです。

バドミントン部

五年二組 藤田 花寧

今年度は、練習内容としてフットワークなどの基礎を中心に活動してきました。そして、新しく入部した一年生を加え、人数が多い中での活動でメニューを考えるのが大変でした。しかし、前期生は三年生を中心に、後期生は実践的な活動を加えながら部員皆が協力して活動することができました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の活動を制限されたなかで、他校との合同練習などが思うようにできませんでした。そのため、限られた時間でより多くのメニューに取り組むことを努力しました。例えば、何事にも速く行動したり、積極的にシャトルを集めたりなど基本的なことを改めて意識して活動しました。そして、このような状況のなかでも楽しく活動できるよう、声を出して明るい雰囲気を作ることも意識しました。また、後期生は前期生にアドバイスをしたりなど良い環境のなかで活動できました。

まだまだ、やり残したことはありませんが、部員皆さんのおかげで明るく楽しく活動できたと思います。支えてくださった先生方、部員の皆さんに感謝しています。この感謝の気持ちを忘れずに、これからも皆で頑張っていきたいと思います。

華道部

五年二組 皆川 雛香

私達華道部は前期生は十三人、後期生は八人で書道教室で毎月一回活動しています。

普段の活動では華道の先生をお呼びしご指導いただいています。季節のお花を花器に生けて生徒玄関と職員玄関に飾っています。ほかにも一年生歓迎会の時に華道部全員で花の種類を説明しながら花を生けるパフォーマンスをしました。生けた花は生徒玄関に飾っています。

今年度の活動を振り返ってみると新型コロナウイルスが流行しておりなかなか活動できませんでした。また、四年生が大会に出場しました。来年度は今年度よりも活動できるようにしたいと思います。例えば競技会などで、経験を積みみたいです。また、今年度行けなかった校外学習の一環としてユリ農業の見学をさせてもらって花への理解を深めたいと思います。普段の活動では学年関係なくむつまじく楽しく活動していますが、いつも一人ひとり落ちついた心の状態で花を生けるようにしています。花に動揺が表れてしまうからです。静かな心の持ち様で向き合った作品を見て校内の皆さんにも花のある暮らしを味わってもらえたらと考えています。

囲碁・将棋部について

五年二組 井上 翼

私たち囲碁・将棋部は、月曜日から金曜日の放課後を中心に活動しています。

昨年度と同様に新型コロナウイルスの影響下での活動となりましたが、対局時のビニール手袋の着用などの昨年度まで行っていた感染防止対策を一部緩和し、昨年度よりも活動のしやすい環境に戻ることができました。そのこともあつてか、部員たちも楽しそうに活動をしているように見えました。

このような事もあつて、今年は私たちの部にとって活動が良い方向に向かい始めた一年だと思いません。来年度は、今年度よりも活動がしやすい環境に戻って、部員全員が自由に楽しく活動することができ、一年になって欲しいと思います。また、新型コロナウイルスの流行が一日でも早く収束し、流行前と同じ環境に戻って、自由に活動ができるようになることを願っています。

合唱部の今と昔

五年一組 藤坂 真実

私は今年五年生になり、合唱部に入部して五年目になりましたが、この五年間で合唱部の雰囲気が大きく変わったように感じます。特に、部員一人ひとりの歌に対する姿勢が大きく変わりました。私が前期生のころは、部長や最高学年の五年生の歌うことへの意識が高く、下級生はその先輩の指示に従って部活動をしていました。そのため、楽しく活動している人もいる反面、先輩に言われたとおりに歌うことが「練習のメニュー」と捉え、ただただこなしている人が私を含め多くいました。それに対し今年度の合唱部は、練習中に自分が歌いづらい箇所や他のパートと合わせづらい所をそれぞれが言える雰囲気があり、皆で共有することができていました。また、部活が始まる前や休憩時間に集まって自主練習する先輩も多くなり、私が一年生の時に見ることのなかった光景にとっても驚いています。一人ひとりが主体的に考え、今の自分に最も必要なことを実行できるようになったと感じています。

私は間もなく引退してしまいますが、合唱部がこれからのように変化していくかとても楽しみです。

発表できる嬉しさ

五年一組 富樫 香那

箏曲部で今年活動していて感じたことは、発表することの嬉しさでした。

去年に引き続き開催された高文連の大会に向けて、後期生は前年度から少しずつ練習してきました。四人という少人数に加え、「五年連続優秀賞」というプレッシャーは大きいものでしたが、優秀賞を受賞することができました。選曲から練習という長い間、後期生内で話し合い、曲をどう演奏するか考えた結果だったと思います。

前期生は、数年ぶりに開催された郡市内の中学校の音楽総合発表会に向けて四月から練習していました。一校だけ箏を演奏するので本番は緊張したかと思いますが、発表会という目標があった分、練習にも打ち込めたと思います。

今年度は大会で保護者の観覧が可能になったり、発表する機会が増えたりと、より多くの人に演奏を聴いてもらえた年だったと思います。これからも発表できることを当たり前に思わず、演奏していきたいと思います。

そして後輩のみんなには、来年こそ最優秀賞を取って全国大会に進んでほしいと思います。

マンガ部について

五年一組 難波 凜

今年度のマンガ部では主にイラスト制作を行いました。十月に開催された「むらかみ宵の竹灯籠まつり」では、マンガ部員一人ひとりがイラストを描き、それを灯籠にしていた物も展示してもらいました。見てくださった方がいたらとても嬉しいですよ。また、開催日は未定ですが、中等二階のフリースペースにてイラスト展示を行う予定なのでそちらもぜひご覧ください。

部活動名はマンガ部ですが、今年度はほとんどの部員が漫画を完成させることができませんでした。新型コロナウイルスの流行による部活動の停止もあり、部員との交流もあまりできませんでした。しかし、積極的に部活に参加してくれる部員もおり、部員同士で協力しながら良い雰囲気でも活動してくれていてとても助かっていました。今後もがんばってほしいです。